

総合病院 聖隷三方原病院

当院の歴史は前身である1942年の聖隷保養農園附属病院設立まで遡ると、2024年度で82年目を迎えることになる。90周年・100周年に向けて、当院がどのような役割を担い、市民及び利用者の皆さんの期待に応えていくのか、極めて重要な時期に差し掛かっていると認識される。2023年7月には荻野和功前病院長から山本貴道現病院長体制に移行するという病院にとっては大きな変化があった。

山本院長の病院経営の構想は、「隣人愛」という基本理念を基軸として「聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る」である。医療安全と質向上の面ではTQM (Total Quality Management) センターを発足させ、満足度の高い医療を提供できるように包括的に管理する部門とする。またBSC (Balanced Score Card) を導入することで、職員一人一人に到達目標を意識させる。これら「医療の安全と質」及び「安定した経営基盤」は車の両輪と位置付けている。今後本格的に展開される三方原地区再開発に向けた元年となるよう舵を切っていく。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

聖隷発祥の地から日本一信頼される病院を創る

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者から信頼され続けられる病院

(ア) 利用者満足度の向上	①新入院患者数	1,350人以上/月
	②患者満足度調査実施回数	4回以上/年
	③病床稼働率(おおぞら除く)	81.8%以上
(イ) 断らない医療の推進	(おおぞら・精神・結核除く)	88.7%以上
	①救急車の重症症例応需率	95.0%以上
	②不応需救急車の緊急度調査	調査実施
(ウ) 地域連携の推進	①紹介初診患者数	1,100件以上/月
	②退院時共同指導料算定数	13件以上/月
	③紹介率・逆紹介率	85%・107%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域から求められる専門性の高い医療の提供

(ア) ブランディング活動の強化	①プレスリリース数・メディア掲載数	2件・1件以上/月
	②HP閲覧数	40,000回以上/月
	③LINE登録数	12,000人以上

	④市民公開講座参加者数	平均80人以上/回
(イ) 聖隷浜松病院との連携推進	①病院連携グループの構築	研修会の開催
(ウ) 三方原地区再開発計画の検討	①三方原地区再開発計画の検討開始	準備室稼働
(エ) 高度救命救急センターの機能充実	①C3病棟47床の稼働率	60%以上
	算定率	80%以上
	1日算定患者数	23人以上
(オ) 手術室の効率的活用	①手術件数	660件以上/月
	②全麻手術件数	310件以上/月
	②手術室の稼働率	63%以上
	③デイスার্ジェリーの設置検討	検討実施
(カ) 専門性の高い医療機能の充実	①院内がん登録件数	1,810件以上/年
	②がん遺伝子パネル検査症例数	21件以上/年
	③高難度新規医療技術(手術件数)	95件
(キ) 聖隷おおぞら療育センター連携推進三方原ベテルホームの機能充実	①ベテルの受診依頼に対する応需率	100%
	②受診まで1時間以上要した件数	10%以下
(ク) 精神科入院機能の効果的活用	①C6病棟の稼働率・算定率	65%以上
		90%以上
	②C5病棟の稼働率・平均在院日数	50%以上
		40日以内
3. 安全で質の高い医療の提供		
(ア) 災害対応の強化	①DMATチーム数	チーム数5
	②非常時通信環境整備	通信機器1台増
	③防災訓練参加人数	延3,000名以上
(イ) 医療の安全と質の向上	①患者誤認件数	前年比20%減
	②IA件数(3b以上)	前年比20%減
	③患者あたり1日手指衛生回数	20回以上/人

「成長と学習」の視点(人材確保・成長のために)

4. 働き方改革の推進

(ア) 医師採用の強化	①医師不足科の医師確保	救急・産婦・内科 各1名以上確保
	②専攻医の確保	5名以上
	③研修医のフルマッチ	100%
	④初期研修医～専攻医の残留率向上	2名以上
(イ) タスクシフトの推進	①必要な専門職の確保	薬剤師・看護補助 ・施設員の採用
	②看護師の採用	70名以上

③タスクシフトの件数	32件以上
④超過勤務時間	12.5h以下
⑤有休消化日数	12.0日以上

5. 働きがいのある職場環境づくり

(ア) 教育体制の充実	①職員満足度調査実施回数	4回以上/年
	②「教育への支援」4段階評価	75%以上

(イ) ハラスメントのない職場環境づくり

①ハラスメント防止の体制整備	委員会設置
②職員満足度調査実施回数	4回以上/年
③「ハラスメント防止活動・支援」	4段階評価
	60%以上

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 安定した経営基盤の確保

(ア) 予算の達成	①サービス活動収益伸び率	103.4%以上
	②サービス活動費用伸び率	103.9%以下
	③税引前当期活動増減差額率	0.8%以上

【数値指標】

サービス活動収益	24,300百万円	常勤換算職員数	1,547.6人
外来患者数	950人	外来単価	22,600円
入院患者数	全体 630人 <一般 573人・精神 55人・結核 2人>		
入院単価	全体 73,500円 <一般 77,900円・精神 29,000円・結核 40,000円>		
病床利用率	全体 81.8%<一般 88.7%・精神 52.9%・結核 10.0%>		
紹介率	85%	逆紹介率	107%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2024年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2024年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

おおぞら療育センターには大きく二つの機能がある。一つは重症心身障害児・者に関わる医療、生活支援、もう一つは脳性麻痺を中心とした小児運動リハビリで、そのどちらも、専門性の高い多職種が関わり、地域にはなくてはならないものとなっている。これまで、関係者の先進的な考えと、多大な労力により、事業として発展し、現在の規模に成長した。

その一方で、障害児・者を取り巻く様々な社会情勢の変化や課題に取り組む為には、既存の制度や体制における限界も見えてきた。事業の将来像を描くために、現状を正確に分析し、職員一体となって課題に取り組む必要がある。

2024年度は、引き続き、重心医療及び小児リハビリ医療に専門性を持つ医療者の育成、チームとしての多職種連携の強化、生活支援員の研修などを通じて利用者生活支援の質の向上を図る、また、在宅支援について、特にショートステイ、レスパイト入院の要望に答えられるような人的配置、病院全体としての連携体制の強化等、おおぞら療育センターの多様な人材を生かし、質の高い医療、生活を提供するよう取り組みたい。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
 - ・利用者誤認による事故ゼロに向けての対策強化（ICT導入）
 - ・総合病院の実施する障害福祉サービス施設としての感染対策の在り方を検討
 - ・多職種・多職場の対話による連携強化
 - ・個別支援計画に基づいた施設における利用者の生活設計の検討
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供【診療体制の強化】
 - ・障害医療の専門医師の育成
 - ・入所利用者の病院受診への対応検討
 - ・成人入所者の診療体制の構築
3. 職員教育の充実
 - ・医療事故防止のための職員教育の徹底
 - ・生活支援員、看護師等の専門職の人材確保
 - ・障害支援に対するプロフェッショナル意識の浸透
 - ・多職種によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）勉強会の継続
 - ・施設運営についての意識向上

4. 地域から求められる施設機能の整備

- ・ショートステイ／レスパイト入院の地域ニーズへの対応を継続
- ・児童発達支援センター機能の検証及び事業方向性の検討
- ・障害福祉サービス通所部門の事業継続のための体制作り
- ・障害児者歯科外来の診療継続
- ・事業継続計画（BCP）の精度強化
- ・緊急時のサービス利用受入れルールの検討
- ・提供する各サービスや施設方針の見える化
- ・在宅療養者支援のための多施設協同カンファレンスの継続
- ・リハビリテーションの更なる充実

5. 業務改革の更なる推進【安定した経営基盤の確保】

- ・入所希望はあるが在宅介護を継続する利用者が多い中で、入所者120名とショートステイ／レスパイト入院20名でも収益が出せる体制作り
- ・ICT活用の更なる推進
- ・中長期的な施設運営計画の検討

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	2,010,030 千円	132,470 千円	67,400 千円	121,800 千円
常勤換算職員数	179.4 人		9.9 人	17.4 人
入院患者・利用者数	127 人	11 人	—	—
入院単価（医療）	31,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	23 人	—	14 人	35 人
外来単価（医療）	4,800 円	—	—	—
単価（福祉）	9,950 円	33,000 円	16,600 円	13,300 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2023 年度は、高い医療ニーズに対応できる組織体制の見直しとして、看護・介護課内に看護係を設置した。それにより医療、居宅等関係機関との連携をさらに強化することができ緊急ショートステイの当日受け入れ等も実施することができた。また前回の介護保険報酬改定において経過措置となっていた感染・災害に関する BCP（事業継続計画）を完成させ訓練を実施した。

2024 年度は、聖隷三方原病院事業部として事業計画に BSC（Balanced Score Card）手法を取り入れていく。利用者価値の視点として、地域社会に貢献できる事業を実施するため、利用者を対象とした満足度調査の評価と共に、新たに利用者家族への満足度調査も行っていく。価値提供行動の視点では、地域包括ケアシステムを更に深化・推進させるため、地域関係機関からの受け入れ体制を強化し、緊急入所（短期入所）を確実に受け入れていく。また安全・安心・快適で質の高いケアを提供するために、聖隷グループとの協働の更なる推進や ICT をより効果的に活用できる取り組みを行う。成長と学習の視点では、介護と医療の視点を持った人材を育成するために医療職と介護職の相互研修を行うとともに働き続けられる環境づくりを行っていく。財務の視点では、継続して利用者の期待に応えられるよう介護保険報酬改定への対応や年度予算の達成に注力していく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点

1. 地域社会に貢献できる事業の実施

- | | |
|----------------------------------|---|
| (ア) 利用者、家族の満足度の向上 | ①入所、短期入所、通所リハビリテーション
利用者の平均満足度 70%以上 |
| (イ) 地域における公益的な取り組みの実施 | ②利用者家族の満足度調査年 1 回以上の実施
①地域での介護予防教室等年 4 回以上の実施
②地域共生社会に沿った取り組み 1 件以上 |
| (ウ) 生活困窮者や身寄りがいない人等に対する
支援の推進 | ①無料定額事業利用率 10%以上
②身寄りがいない人等の受け入れマニュアルの
年度内完成 |

「価値提供行動」の視点

2. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| (ア) 地域関係機関からの受け入れ体制強化 | ①緊急入所（短期入所）応需率 80%以上 |
| (イ) 在宅復帰・在宅生活継続を常に意識した
チームケアの提供 | ①在宅復帰・在宅療養支援等指標80点以上 |

3. 安全・安心・快適で質の高いケアの提供

(ア) 聖隷グループとの協働によるシームレスな
ケアの提供

①事業団内ケアマネジャーからの相談件数
年間 90 件以上、全体比率 17%以上

②聖隷三方原病院から受け入れ 70 件以上

③通所リハビリテーションから事業団内
通所介護への移行支援 2 名以上

(イ) ICT の活用推進

①職員の ICT 活用アンケート回収率 100%

②見守りシステム活用取り組み 3 件以上

③転倒・転落 IA 件数それぞれ 120 件以下

④ホームページ等の更新回数月 2 回以上

4. 安定的に事業継続ができる体制の構築

(ア) 感染・災害対策の強化

①感染対策研修への参加率 100%

②災害対策訓練への参加率 100%

「成長と学習」の視点

5. 医療と介護の視点を持った人材の育成

(ア) 老人保健施設の専門性を強化できる職員教育
の実施

①医療職、介護職の相互理解のための
取り組み 3 件以上

②認知症対応に関連した取り組み 2 件以上

(イ) 理念、経営方針、経営参画意識の浸透

①事業計画説明会参加率 100%

②理念における講演会参加率 100%

6. 働き続けられる職場環境づくり

(ア) 働きやすい職場づくり

①職員が交流できる機会年 2 回以上の実施

②職員満足度調査年 2 回以上の実施

③定着率 95%

「財務の視点」

7. 利用者の期待に応えられる経営管理

(ア) 介護保険報酬改定への対応

①サービス活動収益 837,000 千円以上

(イ) 年度予算の達成

①税引前当期純利益 5,000 千円以上

②人件費率 65.5%以下

③減価償却費率 6.1%以下

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	127 人	28 人	3 件
	入所 118 人	介護保険 27 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	15,600 円	13,000 円	9,000 円
サービス活動収益：		837,000 千円	常勤換算職員数： 92.8 人

総合病院 聖隷浜松病院

2023 年度は「Teaming」をテーマに、院内そして事業団内連携も含め、職員間の心理的安全性を高めることで変化に対応できるチームの構築を目指した。新型コロナウイルス感染症は 5 類へ移行したが、感染者数が急増し第 9 波となった 8 月には、多くの陽性患者を受け入れた。コロナ専用病床を廃止し病棟閉鎖などの診療制限をすることなく通常診療を継続することができたのは、まさに変化に対応できるチームが構築され、能力を発揮した瞬間であった。また、7 月には新 S 棟が完成し、長年の課題であった駐車場不足の問題が大幅に改善された。

2024 年度は新 S 棟の機能をさらに活用し、拡充された外来スペース、手術室の有効活用を推進する。4 月からは医師にも時間外労働の上限規制が適応されるが、医師だけでなく全ての職員がやりがいを持って働きたい労働環境を目指し、働き方の多様性の尊重、労働時間管理の徹底、DX を活用した業務改善の検討を行っていく。職員の負担軽減を進めながら安全で質の高い医療を提供し続けるために、職員がお互いを尊重し、感謝の気持ちをもってチーム医療を推進する精神となる「Respect」を 2024 年度のテーマとする。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します ■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

- ①紹介初診患者数 2,000 人/月以上
- ②患者満足度
病院に満足している 肯定回答率 85%以上
- ③職員満足度
BSC のテーマを知っている 肯定回答率 70%以上
この病院で働くことにやりがいを感じている
肯定回答率 70%以上

（イ）あたたかみのある接遇

- ①患者満足度
職員から安心感のある応対を受けた
肯定回答率 70%以上

②職員満足度

職員同士で気持ちの良い挨拶をしている

肯定回答率 70%以上

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 高度・急性期医療の提供

（ア）地域ニーズに応える医療提供

①新規がん患者数 150 件/月以上

②救急車搬送件数重症・中等症件数 330 件/月以上

③緊急入院患者の DPCⅡ期以内比率 55%以上

（イ）診療スペースの有効活用

①中央ケア室の利用人数 50 件/日以上

②8:30～17:00 中央手術室の稼働率 66%以上

③平日の予定入院数の差異 月～木 18 人/週以下

3. 医療環境の充実

（ア）業務プロセスの可視化と改善

①患者支援センターの滞在時間 平均 40 分以下

②紹介患者の予約時間 15 分前までの案内率

80%以上

（イ）DX を活用した業務改善

①電子問診の導入診療科数 年度末時点 30 科以上

②コンテンツの聖隷アプリ実装件数

動画掲載件数 年度末時点 55 件以上

うち、運用活用動画件数 年度末時点 10 件以上

③生成 AI 等検討件数 年度末時点 6 件以上

4. 医療の質と安全の保証

（ア）安全で質の高い医療の推進

①患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.3%以下

②麻薬・ハイアライト薬品関連の IA 発生率

事象レベル 1 以上 0.3%以下

③転倒・転落による負傷発生率（入外含む）

事象レベル 2 以上 0.85%以下

④職員満足度

コミュニケーションに関する指標

肯定回答率 70%以上

⑤手指衛生実施率

医師 50%以上

看護 82%以上

事務・医療技術 80%以上

⑥職場防災訓練（実践型）実施率 100%

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 魅力のある職場環境

（ア）働き続けたい職場環境づくり

①職員満足度 心理的安全性を評価する指標

平均 70%以上

②職員満足度 職員のやりがいを評価する指標

平均 70%以上

(イ) 働き方改革

①超勤時間（医師）80 時間超え（日当直含まず）

7 名/月以下

②超勤時間（看護・事務医療技術）30 時間超え

40 名/月以下

③長時間労働医師に対する面接指導実施率 100%

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 安定した財務

(ア) 年度予算の達成

①収益（サービス活動収益） 36,793 百万円以上

②変動費率（全職員超勤費用/サービス活動収益）

3.3%以下

③S 棟関連事業収益

（眼科・眼形の診療収益増収額 2022 年度比較）

134 百万円以上

④医師一人あたりの収益比率

（医師の人件費（非常勤含）/診療収益）

16.4%以下

【数値指標】

サービス活動収益	36,793 百万円		職員数	2,217 名	
入院単価	94,400 円	入院患者数	690 名	病床利用率	92.3%
外来単価	24,400 円	外来患者数	1,625 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率		70.0%

【地域における公益的な取組】

当院は、地域で暮らす既存の福祉制度には該当しない疾患を抱えた長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに行なう相談会を定期的に開催している。2024 年度は、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がんに罹患し、就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し当院のがん支援センターが相談の窓口を担っており、継続していく。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2023 年度は 12 月までに 3 名の利用があった。引き続き、社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々へ向けた受入体制の確保と充実を図っていく。

聖隷淡路病院

2024年度は総合診療の充実により高齢者救急を積極的に応需し、淡路医療圏における急性期と在宅療養を繋ぐ地域包括ケアの拠点（＝地域密着型多機能病院）としての役割を果たしていく。さらに疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応できる病院機能を最大限に発揮して経営目標の達成を目指す。地域内の入院・外来診療が必要な患者の需要に応えるため、病床管理の徹底、在宅医療の推進、保健事業の拡大と健診実施後の積極的なフォロー等を行っていく。

ホームページの更新や地域向けのイベント開催など、広報活動を充実させて病院情報の積極的な発信に努めていく。また、淡路市内の聖隷関係施設との人事交流や顔の見える関係を通じた情報交換・共有によりさらなる連携を推進する。聖隷各施設の質の高いサービスを切れ目なく利用者に提供することで、淡路島における聖隷福祉事業団の事業全体の拡充に繋げていきたい。

新興感染症への対応や予期せぬ大規模災害発生に対する準備など発生しうるリスク・脅威に対して持続可能な事業継続計画（BCP）の整備を行い、“島”という立地に対応した当院独自の対策を確立したい。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
4. 経営基盤を確立する

【事業・運営計画】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
 - (ア) 地域包括病棟（病床）の機能を幅広く活用し、病床管理を徹底する
 - (イ) 在宅療養支援病院として訪問診療・在宅医療事業を積極的に推進する
 - (ウ) 患者支援センター（新設）により入院前から退院後まで継続した患者支援を行う
 - (エ) 各診療科の診療体制の充実とともに診療科の垣根を越えた相互協力体制を構築する
 - (オ) 保健事業を拡充し、地域住民の健康増進と地元企業の健康経営に貢献する
 - (カ) 総合診療の体制充実により、高齢者救急の受け入れを強化する
 - (キ) 認知症ケアへの取り組みを強化し、チーム活動を積極的に行う
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
 - (ア) 働き方改革を推進し、職員が働きやすい労働条件・職場環境を整備する
 - (イ) 各職種の専門性を向上し、質の高いチーム医療を実践する
 - (ウ) 病院機能評価（日本医療機能評価機構）の期中評価を行い、質改善活動を継続する

- (エ) 医療安全管理体制を強化する
- (オ) 院内感染対策を徹底する
- (カ) 医療倫理的な問題を審議し、その結果に基づいて医療提供を行う
- (キ) クリニカルパスを運用し、医療の標準化と質の向上を図る
- (ク) 初期臨床研修における地域医療研修と総合診療専門研修プログラムを充実させる
- (ケ) 地域に根差した人材を確保し定着させる
- (コ) 各部門の役職者と高い技術・知識を有する専門職を育成する
- (サ) 利用者からの声を活かし、院内の環境改善に努める

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

- (ア) 地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域連携をより一層推進する
- (イ) 入退院支援・在宅復帰支援を行う体制を再構築する
- (ウ) 淡路島内外（淡路市・洲本市・明石市）の産後ケア事業を継続して行う
- (エ) 医療・介護の連携推進により聖隷関係施設と一体となって事業運営を行う
- (オ) 広報活動の充実により院内情報を広く発信する

4. 経営基盤の確立

- (ア) 医療資源を最大限に活用し、入院・外来の患者を安定的に確保する
- (イ) 収益に見合った費用の削減に取り組む
- (ウ) 職員一人一人が経営参画意識を高め、経営目標の達成に向けて経営改善を行う
- (エ) 診療報酬改定に対応し、病院機能に見合った基準・報酬を漏れなく取得する

5. その他

- (ア) 防災・防犯活動の推進と緊急事態に備えた BCP（事業継続計画）の策定を行う
- (イ) 省エネルギー、資源循環等の活動に積極的に取り組む

6. 地域における公益的な取組

地域住民に向けた健康啓発活動を実施する

7. 無料又は低額診療事業について

無料又は低額診療事業を行う施設として広く生活困窮者の受け入れを行い、基準 10%以上の実績を維持する

【数値指標】

サービス活動収益				2,265,900 千円
入院患者数	131 人/日	入院単価	33,800 円	職員数 207 名
外来患者数	130 人/日	外来単価	11,500 円	病床利用率 86.2%

聖隷横浜病院

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行となり、日常診療の中で感染症対策を行いながら地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、病病・病診連携ならびに横浜市内救急隊など行政との連携強化に全力を尽くし地域貢献に努めた。特に、地域の救急医療体制を支えるために、救急医の招聘ならびに診療部体制の変更を行った。輪番日を週 2 回と固定することにより、整形外科を含めた疾患に対応できるように体制を確立した。

2024 年度は物価高の継続や診療報酬のマイナス改定、医師の働き方改革の新制度が施行されるなど、病院経営を行う上では非常に厳しい 1 年となることが予想される。そのような状況の中でも医療サービスを必要とする地域の多くの方々に良質な医療を提供し続けるため、多様な人材の確保、生産性の向上、救急医療体制のさらなる充実、各医療機関との連携強化、地域の健診業務拡大を行っていく。併せて、関東地区事業団施設との連携を強化し地域から愛されつづける病院づくりを職員と共に進めていく。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 安全で良質な医療の提供 事業、運営
 - (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の強化 事業
 - ①医師を含めた医療安全体制を構築し、さらなる質改善に努める 事業、運営
 - ②医療安全・感染管理体制の評価とさらなる充実 事業、運営
 - ③倫理問題の検討方法の整理 事業
 - (イ) 救急診療体制の充実 事業
 - ①救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ年間 4,500 件 事業、財務
 - ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の強化 事業
 - ③入院・外来に通じた救急救命士の活用 運営
 - (ウ) ドック・健診事業の充実 事業、運営、財務
 - ①予約受入体制の強化、および健診予約枠の拡大 事業、運営、財務
 - ②病院利用者へのドック・健診の推奨 運営、財務
 - ③日曜乳がん・婦人科検診の拡大 事業
 - (エ) 外来診療科体制の充実 事業、運営、財務
 - ①午後の外来診療の増枠 事業、運営
 - ②院内導線の見直し 事業
 - ③受付および問診体制の見直し 事業、運営
 - ④待ち時間の実態を可視化し有効な対策を検討 事業、運営、財務
 - ⑤診療科の再構築 運営

⑥透析利用者の増加 事業、運営、財務

⑦循環バス利用者の促進および利便性向上に向けた検討 事業、運営

2. 多様な人材確保と育成 事業、組織、運営

(ア) 人材確保とディーセントワークの推進 事業、運営、組織

①求人広報の充実と医局および養成校等へのアプローチ強化 運営、組織

②障がい者雇用と定年後における雇用延長の推進 運営、組織

(イ) 働き続けたいと実感できる職場づくり 運営

①職員ドックを推進し、健康経営を展開する 組織

②ストレスチェック結果をもとにメンタルヘルス対策を行う 運営

(ウ) 次世代リーダーの育成 事業、組織、運営

(エ) 病院と訪問看護との人事交流の推進 組織

(オ) コンプライアンス教育の推進 組織、運営

(カ) 地域に求められる医療を推進し続ける職員の育成 事業

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践 事業、運営、組織、財務

(ア) 診療報酬改定への迅速な対応と病院の方向性の検討 運営、財務

(イ) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：年間平均 56.1%） 運営、財務

(ウ) 物価高に対応し、生産性を向上する 財務

(エ) 手術室の効率的な稼働による件数増加：年間 2,000 件（手術室実績） 事業、運営、財務

(オ) 事業団内連携の推進 事業、組織

(カ) 病床再編による効率化と収益性の向上 事業、組織、運営

(キ) 自然環境に対する取り組み 事業、運営、財務

①環境に配慮した資源活用（フードロスの活用、薬品、物品の適正使用） 事業、運営、財務

②食材の地産地消の推進 事業、財務

(ク) 病院設備および医療機器の管理体制の充実 事業、運営、財務

(ケ) 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持 事業

4. 最適な環境づくりの推進 事業、組織、運営

(ア) 働き方改革関連法への対応 事業、運営

①働き方改革の実践 事業、運営

②慣例に捉われない業務手順の見直しやスリム化 運営

③専門看護師・認定看護師・特定看護師の活動の拡大によるタスクシフトの実現 組織

(イ) 職員（子育て世代）の働きやすい環境づくり 運営

①病児保育、一時預かり、小学生の居場所の確保など運用検討 組織

(ウ) 安全・感染対策に配慮した療養環境と労働環境の整備 事業、運営

(エ) インフラ（電子カルテ、ネットワークなど）の安全な移行 事業、運営、財務

(オ) 職種の垣根を超えた協働による、自己及び組織成長の推進 組織、運営

(カ) 共に育ち、互いを認め合う組織づくり 組織

(キ) 聖隷 DX の推進 運営

①医療費後払い運用の構築 運営

5. 地域包括ケアシステムの推進 事業、運営、組織、財務

(ア) ケアミックス病院として各機能病床の安定稼働 事業

(回復期リハビリテーション病棟・緩和ケア病棟・地域包括ケア病棟 各 90%) 事業、財務

(イ) 訪問看護ステーションの機能強化 事業、運営、組織、財務

①看護師・リハビリ技師の人材確保 組織

②在宅医療を必要とされる利用者の獲得 事業、運営、財務

③有効な人事交流とケアサービスの質向上 事業、組織

(ウ) 地域連携および広報活動の強化 事業、運営、組織

①地域の診療所との連携強化 紹介件数：月間 850 件 紹介入院患者数：月間 150 件

組織、財務

②病院の特色および活動を発信できる広報戦略の立案（診療科特色記事・市民公開講座・ホームページ）と実践 運営

③入退院支援（病-病連携）の充実 組織

【数値指標】

サービス活動収益		10,303,140 千円	職員数	702 名	
外来患者数	595 名	外来単価	19,000 円	救急車受け入れ件数	4,500 件
入院患者数	318 名	入院単価	58,000 円	病床稼働率	86.6%
訪問看護介護保険単価		10,300 円	訪問看護介護保険訪問数		852 件
訪問看護医療保険単価		11,300 円	訪問看護医療保険訪問数		265 件

<地域における公益的な取り組み>

- ・無料健康相談会の開催
- ・寄付型自動販売機の設置

<無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する

聖隷佐倉市民病院

2023 年度はコロナ診療と一般診療の両立、健全経営に向けて取り組んだ。5 月にコロナが 5 類に移行したが、当院は 9 月まで重点医療機関として全病棟でコロナ患者の受け入れを行った。また、コロナインフルエンザ外来、ワクチン接種も継続し、コロナ診療における使命を全うした。一般診療では、7 月に救急車受入台数 300 台、8 月には入院患者数 330 名/日、手術件数 306 件と過去最高値を更新し、当院の持つ力を再認識することができた。一方、経営面においては、人件費をはじめとした費用が大幅な予算未達となり、人材確保などの課題が残った。

2024 年度は電子カルテシステム、放射線治療装置の更新など大型投資を計画している。経営への影響は大きいですが、新たな 3 ヶ年計画に基づき経営の健全化を目指していく。そして、将来を見据えた病院機能の強化、職員の採用、定着、育成を強化していく。

2024 年 3 月、当院は 20 周年を迎えた。これからも職員一人ひとりが病院運営の主体として「We」で語る」、そして当院成長の原動力である部門間の強固な「ヨコのつながり」を大切にし、地域医療への更なる貢献を目指して取り組んでいく。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします。

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業計画】

1. 地域医療に貢献するための医療の提供
 - (ア) 救急患者の受入体制の強化
 - ①救急車受入台数 2,000 台を維持
 - ②近隣医療機関からの緊急要請の受入強化
 - (イ) 紹介受診重点医療機関としての役割発揮と評価
 - ①紹介割合、逆紹介割合の基準達成
 - ②7 日以内返書の継続と評価
 - (ウ) シームレスながん医療の提供
 - ①緩和ケア病棟再開、放射線治療装置更新の準備
 - ②健診、病院、在宅医療の連携強化

(エ) 高齢者に必要とされる医療の提供

- ①地域包括ケア病棟への直接入院受入数増加
- ②病院と訪問看護ステーション、ケアプランセンターとの連携強化
- ③摂食嚥下障害や認知症への対応
- ④ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進

2. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な職場風土の醸成

- ①IA レポートを活用した改善活動の共有
- ②医療安全風土向上への取り組み

(イ) 感染管理体制の充実

- ①上位の感染対策向上加算取得に向けた検討
- ②各種サーベイランスの実施

(ウ) 継続的な質改善活動

- ①外部評価（適時調査・保健所立入調査・各種監査等）への対応
- ②BCP（事業継続計画）の策定と評価
- ③災害対策の強化

3. 利用者に信頼され、選ばれる医療サービスの提供

(ア) 情報発信力の強化

- ①クリニカルインディケーター、診療情報の充実
- ②ホームページの更新
- ③地域住民参加型イベントの開催

(イ) 利用者に優しい病院づくり

- ①タスクシェアによるチーム医療の充実
- ②待ち時間対策
- ③利用者の声を活用した改善活動

4. 将来を見据えた人材確保と育成

(ア) 採用力の強化

- ①採用媒体を活かした採用活動の実施

(イ) 働きやすい環境づくり

- ①働き方改革への適切な対応
- ②健康経営の推進
- ③全部門連携による業務の効率化
- ④心理的安全性の高い組織づくり

(ウ) 人材育成体制の整備

- ①各種研修の充実および一元管理

(エ) 当院の強みを職員が知る

①20 年の歴史と組織文化の継承

5. 経営と運営の両立に向けた取り組み

(ア) 予算達成に向けた取り組み

①診療報酬改定対応

②新たな集客、集患策の実行

(イ) 適切な運営管理

①収益と費用のバランスを意識した運営

②電子カルテおよび健診システム更新後の安定稼働

③コンプライアンスの徹底

(ウ) 将来構想の継続検討

①3 か年経営計画の評価

②SDGs、カーボンニュートラルへの積極的な取り組み

6. 地域における公益的な取組

(ア) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施

(イ) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2023 年度は地域の利用者のニーズに応えることができるよう、ケアマネージャー2 名、看護師 1 名を採用し事業拡大及び、より専門性の高いサービスの充実を図った。また、病院との連携強化を目的とした定期的なミーティングの開催や病棟看護師向けの勉強会、退院後同行訪問等を実施した。2024 年度も、地域に根差した支援が行えるよう病院や地域との連携を大切にしながら、病院機能の一環として個人または事業部の教育体制を徹底し在宅部の強化を図る。

【数値指標】

項 目	予 算	項 目	予 算
外来 患者数	822 名	外来 単価	15,300 円
入院 患者数	310 名	入院 単価	56,500 円
病床 稼働率	82.2%	職員数	797 名
健診 受診数	198 名	健診 単価	18,920 円
訪看 介護保険利用回数	474 件	訪看 介護保険単価	8,000 円
訪看 医療保険利用回数	203 件	訪看 医療保険単価	10,550 円
ケアプラン 介護保険利用回数	147 件	ケアプラン 介護保険単価	13,790 円

<無料又は低額診療事業>

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準 10%以上の実績を維持する。

浜松市リハビリテーション病院

2024年度は浜松市の指定管理5期目（17年目）のスタートとなる。浜松市における当院の存在意義は「急性期から社会復帰にかけてのHUB（ハブ：拠点）としての役割を果たすこと」である。回復期リハビリテーションを提供する過程において、退院後の生活を見据え「その人にとっての生き方」を自分で決められるよう支援することが当院の使命である。2024年度はその使命を果たすため、「利用者にとっての最善の関わりは何か」の明確化に加え、職員自身もユニークな考えや自分達のやりたいことを言語化し、「運用や運営に主体性を持って独自の新しさを創っていく」年になるようテーマを「発想」とした。利用者に「また来たい」と思ってもらえ、働く職員同士が「ここで一緒に働きたい」と思える雰囲気をつくることが重要である。職員が健康でいきいき働けるとケアの質は向上し、利用者満足につながる。マインドも含めた組織のムードを高めていきたい。

人材確保は喫緊の課題である。業務改善を具体的に進めるとともに協働する組織体制の成熟が必要となる。業務の切り分けや就労ボランティアの活用など新しい業務スタイルを「発想」し、時代にあった働き方と体制を実現していく。

経営的には、病床管理の確実性が最重要である。地域連携・患者サポートセンターの権限強化、病床管理の見える化に取り組んで行く。同時に将来的に安定した収益確保ができるよう、新規事業について「発想」しコンセプトの作成を進める。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用者の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い地域連携体制を構築する
4. 職員の資質・技能向上、その育成と人材確保に努める
5. 健全な経営基盤を確立する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2024年度事業テーマ】：「発想」

職員自身がユニークな考えや自分達のやりたいことを言語化し、運用や運営に主体性を持って独自の新しさを創っていく年とする

【2024 年度 事業目標・年度重点施策】

1. 利用者や職員に選ばれる病院

- (ア) また利用したい、ともに働きたいと思える病院づくり
- (イ) 地域に求められる新しいサービスの拡充
- (ウ) 生産性向上と業務効率化を同時に実現
- (エ) カンファレンスの全面的改革

2. 質の高いリハビリテーション医療の実践と伝承

- (ア) 持続的发展ができるセンター体制
- (イ) 想定されるあらゆるリスクへの対策を強化
- (ウ) 外来診療体制の再構築
- (エ) 電子カルテ更新マスタープランの作成

3. 地域連携の強化

- (ア) スムーズな入退院支援
- (イ) 退院後の活動・参加の充実を図る

4. 持続可能な経営基盤の確立

- (ア) 確実な病床管理
- (イ) 新規企画・事業による新たな価値の創出
- (ウ) 新訓練棟建築計画の具体化

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) いきいきトレーナーの活躍の場の創出
- (イ) 地域と連携した災害対策の強化
- (ウ) 地域ニーズに沿った積極的な情報発信
- (エ) 医療と福祉の狭間の就労支援「momo」の事業拡大

【数値指標】

サービス活動収益	3,859 百万円	常勤職員数	437 名			
患者・利用者数 単価 利用率	外来	入院			介護	
		回復期	一般	合計	通所	訪問
	145 人/日	176 人/日	40 人/日	216 人/日	916 人/月	411 人/月
	10,200 円	43,000 円	35,000 円	41,500 円	4,770 円	8,400 円
		97.7 %	88.8 %	96.0 %		

聖隷袋井市民病院

当院はリハビリテーションを中心とした医療や慢性期医療を提供し、地域の急性期病院、診療所、介護施設などとの連携を通して地域共生社会の一翼を担っている。袋井市から指定管理を受託し12年目となる2024年度は、職員が互いの専門性を尊重しながら質改善活動をおこなう『共感力と協働』をキーワードとし邁進する。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

キーワード：共感力と協働

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
 - ① 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの質向上
 - ② 終末期患者への緩和医療や看取りケアの質向上
 - ③ 利用者の利便性・満足度の向上
 - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
 - ① 医療安全体制の確立と実践
 - ② 院内感染管理体制の強化と実践
 - (ウ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実
 - ① 先進機器の活用を含めた先駆的なリハビリテーションの提供
 - ② 摂食えんげ障害への支援の充実
 - ③ 高次脳機能障害への支援の充実
2. 地域共生社会への貢献
 - (ア) 退院後生活を見据えた支援体制の強化
 - ① 退院支援・調整機能の向上
 - ② 訪問診療のさらなる発展
 - ③ 訪問リハビリテーションの拡充
 - (イ) 後方支援病院としての機能の強化
 - ① 急性期病院との密な情報交換の実施
 - (ウ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援
 - ① 職員と市民の認知度向上に向けた取り組みと ACP の実践

3. 人材の確保・育成の推進

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種の採用強化
- ② 看護補助者教育体制の充実

(イ) 専門性向上の支援

- ① 認定資格等の取得促進
- ② 資格取得後の活用体制の構築

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

(ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備

- ① 時間外労働の低減につながる業務改善
- ② 健康施策の実施

(イ) 両立支援制度の普及啓発、活用

5. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

- ① 柔軟なベッドコントロール
- ② 情報発信力の強化

(イ) 回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得

(ウ) 災害対策の強化

- ① 発災から 72 時間に取り組むべき行動の可視化と対応の強化

6. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案

(イ) 袋井市版 ACP「こころのノート」普及啓発活動

(ウ) 認知症初期集中支援活動

【数値指標】

サービス活動収益	1,759,740 千円	常勤換算職員数	203.5 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	46 人／日	8,200 円	-
入院	135 人／日	29,100 円	90%
再掲（回復期）	46 人／日	36,880 円	92%
（一般）	42 人／日	28,000 円	84%
（療養）	47 人／日	22,460 円	94%
	利用回数	単価	
訪問リハビリテーション	949 件／月	3,370 円	

保健事業部

聖隷健康診断センター 聖隷健康診断センター東伊場クリニック
聖隷予防検診センター 地域・企業健診センター
聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 聖隷静岡健診クリニック

2023年度は、組織再編、システム改修、必要人員の確保等により業務の安定を図り、利用者からの信頼回復と職員の長時間労働の是正に努めた。

しかしながら、利用者からの完全な信頼回復は未だ途上にあり、今後はさらに利用者が求めていることに対して耳を傾け、信頼回復に向けて努力を積み重ねていかなければならない。

また、事業を支える職員の長時間労働は前年度に比べ改善傾向にあるものの、健康経営を実現するには、抜本的な事業運営方法の見直しが必要である。

以上の現状を踏まえ、2024年度は下記の通り6つの「事業・運営計画」を掲げた。

第一に、「利用者本位の業務遂行」

契約団体に対しては、スピード感と正確性を持った渉外活動を実施し、先方が求める最適な健診を提供する。またご利用者に対しては滞在時間短縮、利便性の向上に努め、満足度の高い健康診断を実現する。

第二に、「質の高いサービスの提供」

健診業務遂行の要である契約マスタの精緻化を図り、誤りのない健診運営を実現する。

また、接遇力、技術力、問題解決力等を備えた人材を育成し、ご利用者に対して最高品質の保健サービスを提供する。

第三に、「コンプライアンスの遵守」

システム改修によりレスポンス改善及び作業時間の削減を図る。また、巡回健診においては過剰な健診日程や人員配置をなくすことで長時間労働の是正を図り、労働基準法を遵守する。

一方、職員の情報リテラシーを向上させると共に、個人情報保護法を遵守する。

第四に、「システム改修の継続とデジタル化の推進」

健診システムの改修、業務のデジタル化およびWeb化により業務の効率化と利便性向上を図る。

第五に、「職場運営体制の充実」

2023年度に再編成した組織を基に、課及び係レベルの業務分掌、指揮命令系統を明確にし、運営管理の徹底を図る。

第六に、「経営数値の改善」

事業継続に必要な取り組みを各部署において実施しつつ、将来需要予測、法改正、人口動態、企業・市町の動向等、マーケティングに基づいた戦略的な経営を実践する。

以上の施策をもって、2024年度は、職員の健康を守り、利用者からの信頼を丁寧に積み重ねていく年度としたい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者本位の業務遂行

○何事も顧客本位に考え、契約内容および期日を厳守し顧客に対してきめ細かい対応を図る

(1) 契約団体

(ア) 契約団体管理体制の再構築

(イ) 請求書・結果報告書の電子化およびWeb化の実施

(ウ) 市町との協働による巡回住民健診受診勧奨の実施

(エ) 法改正への確実な対応(第4期特定健診・特定保健指導制度、HPV公的検診、労働安全衛生法改正、特殊健診法令改正等)

(2) 利用者

(ア) 健診システム改善および運用改善による待ち時間の短縮

(イ) Web予約枠拡張による利便性の向上

(ウ) Web問診の導入検討

(エ) 滞在時間短縮サービス(スピードドック等)の拡張〈健診センター、予検センター〉

(オ) 滞在時間短縮型ドックの展開〈東伊場クリニック〉

2. 質の高いサービスの提供

○サービスの質を追求し、利用者に対して最高品質の保健サービスを提供する

(ア) 挨拶、丁寧な説明、臨機応変を旨とした接遇の実施

(イ) 正確な技術力、課題発見力、問題解決力を備えた人材の育成

(ウ) オンライン保健指導の積極活用によるハイリスク者への早期介入の実現

(エ) 組織的な連携体制と各種専門職等による産業保健支援活動の展開

(オ) 契約マスタの精緻化による品質の向上

3. コンプライアンスの遵守

○法令を遵守し、健康経営の実現および情報漏洩の防止に努める

(1) 労働基準法

(ア) 健診システムの改善、運用の抜本的な見直しによる長時間労働の是正

(イ) 巡回健診における健診日程、人員配置の適正化による長時間労働の是正

(ウ) 職場環境・作業環境の改善

(2) 個人情報保護法

(ア) 契約マスタの精緻化による誤送付防止

(イ) ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)手順書遵守による個人情報漏洩防止

4. システム改修の継続とデジタル化の推進

○システム改修を継続し作業の効率化と精度向上を図り、業務のデジタル化を推進する

(ア) 健診システム改修による省力化

(イ) 業務の電子化およびWeb化による効率化

(ウ) 健診事前準備システム導入検討

5. 職場運営体制の充実

○職場における業務分掌、指揮命令系統を明確にし、運営管理の徹底を図る

(ア) 管理規定および組織図に則った職場運営管理の徹底

(イ) 運営管理センターミーティングによる相互連携強化

6. 経営数値の改善

○事業継続と、将来の設備投資計画を念頭に置き、必要なサービス活動収益及び増減差額を確保し、予算を達成する

(ア) 「保健事業部経営再建計画」に則った経営再建

(イ) マーケティング（将来需要予測、契約団体の動向等）に基づいた戦略的経営の実施

(ウ) 初回利用者リピート率向上による継続的な収益確保

(エ) 巡回健診契約団体および実施エリアの見直しによる経営効率の改善

(オ) 事業継続に向けた費用コントロール

【数値指標】

■聖隷健康診断センター、聖隷健康診断センター東伊場クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
34,115 名	205 名	47,910 名	7,780 名	26,600 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
2,690 名	16,300 名	135,600 名	2,898,000 千円	221.3 名

■聖隷予防検診センター、地域・企業健診センター

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
21,790 名	0 名	329,650 名	4,100 名	49,250 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
43,520 名	13,470 名	461,780 名	4,305,000 千円	313.1 名

■聖隷聖隷健康サポートセンターShizuoka、静岡健診クリニック

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
18,580 名	0 名	90,860 名	2,450 名	21,320 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
7,400 名	11,210 名	151,820 名	2,042,000 千円	151.3 名

■保健事業部合計

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
74,485 名	205 名	468,420 名	14,330 名	97,170 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	常勤換算職員数
53,610 名	40,980 名	749,200 名	9,270,000 千円	840.5 名